カーの指導者の交流を図っている。女子サッカーの人口は、日本約4万8000人

FC町田ゼルビアの公式戦後に行われているふれあいサッカー。女子だけのコーナー「なでしこ広場も」（守屋さん提供）

町田
町田セ
なスポ

気づかせ、ひいては地域の活性化につながるような活動を目指したい。

体操仲間と語り合う防災

立川でNPO提案
15グループが活動

「助け合う雰囲気作りを」

防災について意見交換する参加者ら（16日、立川市羽衣町で）

地域の防災意識を高めようと、近隣住民が集まる体操教室で防災についても語り合う「防災カフェ」が立川市で行われている。提案するNPO法人「ケア・センターやわらぎ」の代表理事・石川治江さん(69)は「年に1度の避難訓練だけではなく、日頃から災害時に助け合う雰囲気作りを広げていきたい」と話している。

同法人はもともとは、同市の支援事業として、10年前から地域の住民を対象とした体操教室を開催してきた。3年間の事業終了後、地区ごとの26グループが同法人に引き続き講師の派遣を要請し、その後、月に2、3回のペースで教室を開いていた。

今年1月、防災や災害時の備えについて関心があった石川さんが、「体操の仲間同士だと気負わずに意見を出し合えるはず」と、防災意識を高めるためにあれこれと語り合う防災カフェの開催を呼びかけると、15のグループで活動が広がったという。

16日は、同市羽衣町のマンションの集会場に63歳～83歳の男女22人が集まり、体操で体を動かした後、前日に防災のシンポジウムに参加した女性が内容を報告。「簡易トイレとして猫の砂がいいらしい」「熊本地震で備蓄の大切さを再確認した」などと意見を出し合った。今後は停電時に備えるため、電気を使わずに過ごす「停電体験」なども提案する予定だという。

この日参加した主婦山口陽子さん(68)は、「短時間でも防災を話題に語り合うことで、しまい込んでいたラジオを出したり水を備蓄したり、行動につながった。いざという時に助け合おうという意識も芽生えたと思う」と話した。

子育て支援センター　ドイツ視察団が訪問

青梅

青梅市の市子育て支援センター・はぐはぐを17日、ドイツからの視察団の一行9人が訪れ、同センターを運営するNPO法人「青梅こども未来」と意見交換などを行った＝写真＝。

視察は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施している日独青少年指導者セミナーの一環。こども未来は行政や地域、企業などと連携しながら、子育て支援や子供の居場所づくり、多世代交流などの活動に取り組んでいる。稲葉恭子代表理事は一行を前に活動を紹介し、「いろいろな世代が子供の成長や子育てを応援する場を実現したい」などと語った。

一行は、「行政などとのネットワークはどのように作ったのか」など、熱心に質問していた。

被災地応援　うまいもの市

熊本地震　八王子で九州・沖縄名物

JR八王子駅の商業施設「セレオ八王子」で「熊本地震復興応援　九州・沖縄うまいもの市」が開かれている。売上金の一部を被災地に寄付する。

2階イベントスペースに13店舗が出店。まんじゅうの角煮まん（長崎県）、スイートポテト（鹿児島県）、紅いもなどを使ったアイス（沖縄県）、海ぶどう（同県）など、ご当地自慢の名物を取りそろえた。一部商品は館内で調理し、できたての販売も実施中。

「うまいもの市」は23日までだが、2階インフォメーションには31日まで募金箱を設置して義援金を募る。

○郷土力士星取表●　10日目

幕下	芝	●	や	○	や	や	や	■	や	や	●
	浜栄光	●	や	や	○	や	○	や	○	●	や
三段目	栃颯	や	や	や	や	や	や	や	や	や	や
	瓦海	や	●	●	や	●	や	●	や	や	○
	貴輝鳳	や	○	や	●	●	や	●	や	や	●
序二段	千代青梅	●	や	○	や	や	○	●	や	□	や
	栃満	や	○	や	●	や	○	●	や	○	や
	大国岳	や	●	○	や	や	○	や	●	や	●
	翼雄星	○	や	○	や	や	●	○	や	○	や
	大国山	○	や	や	●	や	○	や	●	や	●
	亀岡	●	や	●	や	○	や	●	や	や	●
	圷	●	や	●	や	や	○	○	や	や	●
序ノ口	福湊	や	●	や	●	●	や	●	や	●	や